

第3回宇宙開発委員会（臨時会議）
議 事 次 第

1. 日時 昭和51年2月10日（火）
午後2時～4時

2. 場所 宇宙開発委員会会議室

3. 議題

(1) M-30-3号機の打上げ結果について

説明者 東京大学宇宙航空研究所教授 河村 龍馬
野村民也
小田 稔
林 友直
文部省学術国際局研究機関課長 植木 浩

(2) M-30-3号機の打上げ結果の評価について

5. 資料

委3-1 第2回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨

委3-2 M-30-3号機実験概要報告

委3-3 昭和50年度1～2月期に東京大学宇宙航空
研究所が行ったM-30ロケット3号機の打
上げ結果の評価について案

委 3-1

第2回宇宙開発委員会（定例会議） 議 事 要 旨

- 1 日時 昭和51年1月21日（火）
午後2時～4時
- 2 場所 宇宙開発委員会会議室
- 3 議題
 - ・ ドイツ連邦共和国研究技術省第5局長の招へいについて
- 4 資料
 - 委2-1 第1回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨
 - 委2-2 ドイツ連邦共和国研究技術省第5局長の招へいについて（案）
- 5 出席者

宇宙開発委員会委員長代理	山 県 昌 夫
“ 委員	網 島 毅
“ “	八 藤 東 福
“ “	斎 藤 成 文

関係省庁職員等

科学技術庁長官官房参事官	園 山 重 道
文部省学術国際局審議官	犬 丸 直
	（代理：小杉）

(1)

- | | |
|---------------------|-----------|
| 通商産業省機械情報産業局次長 | 井 川 博 |
| | （代理：角田） |
| 気象庁総務部長 | 宇都宮 寛 |
| | （ “ ：高谷） |
| 海上保安庁総務部長 | 鈴 木 登 |
| | （ “ ：佐藤） |
| 郵政省電波監理局審議官 | 市 川 澄 夫 |
| | （ “ ： 寛 ） |
| “ 電波研究所調査部周波数利用研究室長 | 山 岡 誠 |
| 事務局 | |
| 科学技術庁研究調整局調整課長 | 加 藤 泰 丸 |
| “ “ 宇宙企画課長 | 上 島 史 郎 他 |

- 6 議事要旨
 - (1) 前回議事要旨について
第1回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨が確認された。
 - (2) ドイツ連邦共和国研究技術省第5局長の招へいについて
事務局から、資料委2-2に基づいて説明が行われ、以下の質疑応答が行われたのち、原案どおり決定された。
網島：研究技術省第5局は何を担当しているのか。
事務局：宇宙及び輸送システムである。
山県：今回の招へい期間は約一週間となつていますが、過去においても、招へい期間は一週間程度か。
事務局：47年、48年及び49年における招へい期間は、それぞれ8日間、7日間及び10日間であつた。

(2)

M-3C-3号機実験概要報告

昭和51年2月

東京大学宇宙航空研究所

M-3C-3号機は昭和51年2月4日15時00分上下角75度で発射された。

オ1段ロケットの燃焼および飛行は正常で、補助ブースタの分離、オ1段の切り離しも順調に行なわれ、~~■~~だが、姿勢基準装置の誤動作のためオ2段ロケットの燃焼中におけるTVカメラの姿勢基準角が、オ3段打ち上げの姿勢基準角となったので、オ2段目の飛しよう径路が非常に低くなった。このためオ3段の点火を停止したので、CORSAを红星軌道に投入することが出来なかった。その原因については今後調査検討を重ね究明する計画である。

昭和50年度1～2月期に東京大学宇宙航空
研究所が行ったM-30ロケット3号機の打
上げ結果の評価について（案）

昭和51年2月10日
宇宙開発委員会決定

昭和51年2月4日東京大学宇宙航空研究所が行ったM-30
ロケット3号機の打上げ結果を評価するため必要な技術的事項に
ついての調査審議を技術部会において行う。この調査審議はでき
る限りすみやかに終えることとする。